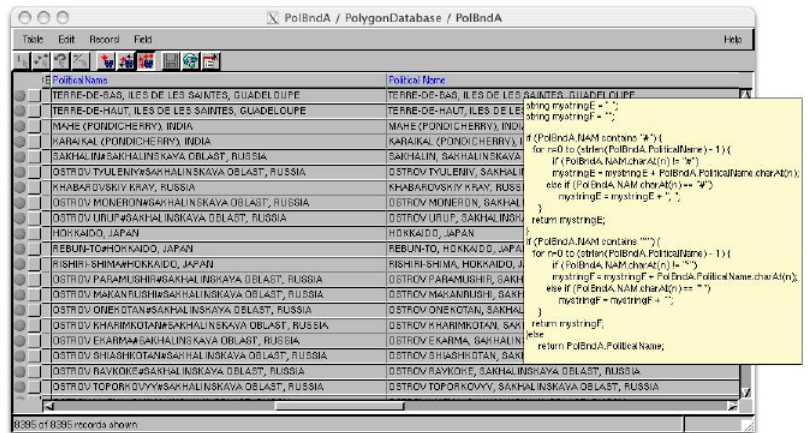


長いフィールド説明のデータチップ表示

表形式での表示の際、フィールド名（項目見出し）の上でカーソルを止めると、フィールド説明がデータチップとして表示されます。“システム：ロングネーム化されたオブジェクトとフィールド名およびその説明 (System: Long Object and Field Names and Their Descriptions)” という表題のカラープレートで説明したように、フィールドの説明は複数行で文字数の制限なく付けることができます。このテーブルの例では、文字列式フィールドのスク립トが説明として使われており、#や*といった文字が他の文字列式フィールドから除かれています。このような説明は、<テーブルプロパティ (Table Properties)> ウィンドウから文字列式を開き、テキストを選択しコピーして (Ctrl キー + C、もしくは右クリックして [コピー] を選択)、それを説明フィールドに貼り付けるだけで簡単に作成できます。説明がない場合にはフィールド名がデータチップとして使用され、全部表示されないような長い名前の場合に便利です。



8396 of 8396 records shown

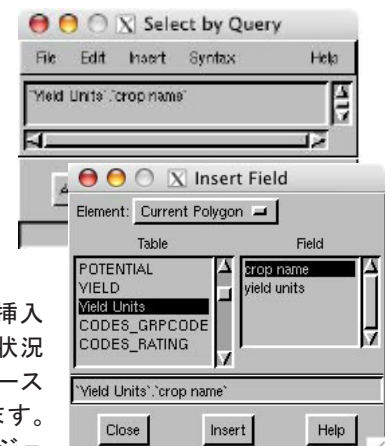
システム

クエリーや SML でのテーブル／フィールドのロングネーム対応

スペースや英数字ではない文字が含まれない限り、長いテーブル名やフィールド名を SML やクエリーにおいて使用するのには問題ありません。これらの特徴 (15 文字より長い、1 つ以上のスペースを含む、英数字でない文字を含む) を持つ名前については、文字数が 15 文字以上なくても“ロングネーム”と呼びます。テーブルやフィールド名の中のスペースは、アプリケーションプログラムを書く際に問題になります。スク립ト中の要素はスペースによって別々に解析されるためです。- や + といった非英数字の文字は演算子 (オペレータ) であり、テーブルやフィールド名にこのオペレータがあると、スク립トやクエリーを実行する際、構文エラーや意図しない動作の要因となる場合があります。起こり得るこうした問題に対処すると同時に、テーブルやフィールド名でスペースや英数字でない文字を使用するには、スク립トやクエリーにおいて現れる長いテーブル、フィールド名 (table, field) を逆引用符 (`)

注意：長い名前や説明を入力、表示する機能は、ベクタのフィルタや組み合わせ演算といった古い処理ではまだ使用できません。これらの処理では長い名前や説明のテーブルやフィールドを使用することはできませんが、作成することはできません。クエリーを使って選択、スタイリングをする場合は、機能が追加されるまでレガシー名を使う必要があります。

で囲む必要があります。テーブルやフィールド名は逆引用符で別々に囲みますが、フィールド名 (もしくはテーブル名) のみがスペースや英数字でない文字を含む場合、テーブル名 (もしくはフィールド名) は逆引用符で囲む必要はありません。右図に示されたクエリーによる選択 (Select by Query) > ウィンドウでは、テーブルとフィールド名の両方にスペースがある場合の逆引用符の挿入のし方を示しています。



選択やスタイリングのクエリー入力ウィンドウから [挿入 / フィールド] を選択して table, field 名を挿入する際、状況に応じて逆引用符が自動的に追加されます。スク립トやクエリーにおいて、スペースや英数字を含まないロングネームとレガシー名を相互に切り換えて使うことができます。(レガシー名は 2005 : 71 およびそれ以前のバージョンで、ロングネームを持ったオブジェクトやテーブルやフィールド名を使用する際に必要になります。) 逆引用符がロングネームの名前に使用されている限り、同じ互換性がスペースや英数字でない文字を含むテーブルやフィールド名にも適用されます。このトピックに関する詳しい情報については、“システム：ロングネーム化されたオブジェクトとフィールド名および説明 (System: Long Object and Field Names and Their Descriptions)” という表題のカラープレートを参照してください。